



## 見学会から仲卸でのフェア開催へ！ 「六合の花産地見学会」の開催とその後

### ■今年で3年目！「六合の花産地見学会」が開催！

8月24日(金)～25日(土)にかけて、中之条町六合地区で「六合の花産地見学会」が開催されました。産地見学会の開催は今年で3年目となり、市場関係者の間でも恒例のイベントとなり始め、今年は参加人数が過去最多の24名となりました。今年の参加募集は6月頃から始まりましたが、市場では募集開始前から「今年の日程はいつなのか」「日程は空けるから早めに連絡欲しい」などの声が聞かれ、市場関係者の関心の高さが感じられました。

産地見学会当日は、卸・仲卸・生花店の参加者が東京から中之条町六合地区の「中之条山の上庭園(旧花楽の里)」に集合し、3班に分かれて六合地区のほ場を見て回りました。

ほ場では、生産者が自分の栽培している花を説明するとともに、参加者と生産者の活発な意見交換が行われました。この意見交換のなかで、生産者は消費者のニーズを確かめ、参加者からは新しい出荷規格の提案などが行われていました。また、移動の途中では道端の草花に興味を示す参加者も見られました。

2日目は、六合地区だけでなく、中之条町で輪ギクや枝物の生産を行っている「中村花組合」のほ場も回るとともに、「六合の花」をよりよく知ってもらうための花材サンプルの提供が行われました。

参加者からは、「見学会に参加したことで、作り手の顔を思い浮かべながら、今まで以上に力を入れて販売できるようになった」「六合の魅力を確認できた。ぜひ六合の花でフェアをやりたい」など、見学会に参加してよかったという感想が多く聞かれました。



生産者によるほ場の説明



道端の草花に興味津々な参加者

### ■産地見学会をきっかけに仲卸で「六合の花フェア」が開催！

大田市場内の仲卸である(株)大森花卉で、9月14日(金)に「六合の花フェア」が開催されました。このフェアは、8月に開催された「六合の花産地見学会」に(株)大森花卉の担当者が参加したことをきっかけとして開催されることとなりました。フェアは、店舗前に特設ブースを設けて早朝5時から10時まで開催され、多くの買参人の注目を集めていました。

フェアでは、モニターに六合地区のほ場の様子と生産者を紹介する動画が流され、グリーンやピンクを始めとした各色のセダムやシュウメイギク、ヒオウギの実、ホトトギス、フジバカマなど、約20種類の「六合の花」が販売されました。特に人気の商品とすると、セダムやヒゲ咲きフロックス、シュウメイギク(白)が人気が高いとのことでした。

(株)大森花卉のほかにも、都内の生花店である小田急ランドフローラで9月28日(金)～31日(日)にかけて六合の花を扱ったフェアの開催が予定されています。



特設ブースの様子



棚に並べられた様々なセダム(4品種)